

都道府県別の自県進学率と県内学生数の可視化：狭義と広義の地元志向の観点から

田澤, 実 / TAZAWA, Minoru

(出版者 / Publisher)

法政大学キャリアデザイン学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

生涯学習とキャリアデザイン / Lifelong Learning and Career Studies

(巻 / Volume)

21

(号 / Number)

2

(開始ページ / Start Page)

35

(終了ページ / End Page)

64

(発行年 / Year)

2024-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00030948>

都道府県別の自県進学率と県内学生数の可視化 — 狭義と広義の地元志向の観点から —

法政大学キャリアデザイン学部 教授 田澤 実

1 問題と目的

(1) 人口減少と都道府県間移動

総務省の「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（令和5年1月1日現在）」によれば、日本の住民数は1億2,242万3,038人であり、平成21年のピーク以降、14年連続の人口減少であった。この人口減少に対抗するため、各都道府県（以下、県と表記）や自治体は様々な取り組みを実施している。

それでは、都道府県間での移動はどの年齢層で多いのだろうか。総務省の「住民基本台帳人口移動報告 2023年（令和5年）結果」によれば、2023年における都道府県間の移動者数は2,544,639人であった。年齢別の都道府県間の移動者数を図1に示す。移動者は特に20代に多いこと、22歳と18歳で特徴的に多いことが分かる。18歳には大学進学時の移動者が、22歳には大学卒業後の就職時の移動者が一定数含まれていることが考えられる。

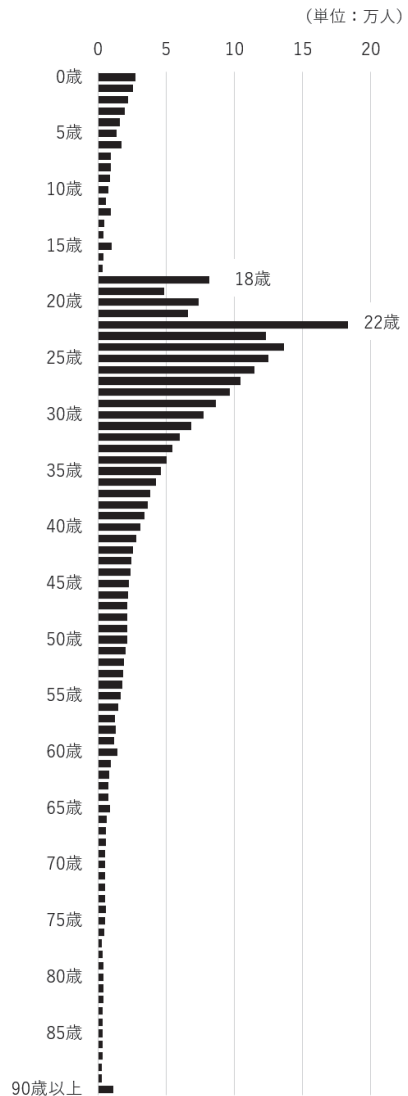


図1 都道府県間移動者数

(2) 若者の東京一極集中と若者の地元進学

2018年5月には、地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律が参議院本会議で可決され、成立した(参議院,2018)。この法律は、原則として2028年3月まで東京23区内の大学の入学定員の増加を認めないことを規定している。この背景には、進学や就職に伴う若者の東京一極集中の是正がある。

近年では、内閣官房および内閣府の「第2期『まち・ひと・しごと創生総合戦略』(2020改訂版)」に基づき、地域における大学の振興や若者の雇用機会の創出を通じて、地域での若者の修学および就業の促進を目指す取り組みが進められている。例として、東京都外から東京都内の大学に入学する学生の割合を、2024年度までに2019年度比で減少させる目標が設定されている。また、「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」(令和3年6月18日閣議決定)においては地方大学等への進学、地方企業への就職という流れを更に促進し、地方への若者の定着を図る方向性が示されている。

また、文部科学省は2020年に、大学が地方公共団体や民間企業などと連携し、地域が求める人材を育成するための「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業(COC+R)」を実施している。これは、出口(就職先)と一体となった教育プログラムを実施することで、若者の地元定着と地域活性化を推進することを目的とするものである。

これらの背景もあり、若者の地元進学や地元進学に対する社会的な関心が集まっている。

(3) 目的

本研究では、都道府県別の自県進学率と県内学生数について可視化する。

以降ではデータの出典の特に明記のないものは文部科学省の「学校基本調査-令和5年度結果の概要-」を用いている。

(4) 本研究の構成

つづく第2節では、都道府県別の自県進学率と大学進学率の男女差を示し、その県の大学進学者がどれほど自県に残留し、またどれほど他県へ流出するかを明らかにする。

第3節では、都道府県別の県内学生数について示し、他県からどれだけの学生が自県の大学に進学しているかを確認する。そして、近隣県からの進学者と遠方の県からの進学者を区別することの重要性を指摘する。

第4節では、近隣県からの進学者を捉えるために、地元と認識する他県という指標を説明する。

第5節では、各県の大学進学者がどの県に進学したのかを示し、第4節で示した地元と認識する他県との関連を明らかにする。

第6節では、第4節の結果を踏まえて、地元と認識されている他県という指標を説明する。

第7節では、第6節で示した地元と認識されている他県という指標を用いて、他県からの進学者を近隣の者と遠方の者に分け、県内学生数の内訳を視覚化する。

2 都道府県別の自県進学率

(1) 18歳人口、大学進学率、自県進学率

自県進学率の促進に期待されることのひとつは、その県の18歳人口の減少を抑制する事であろう。18歳人口は、大学進学者とその他の進路の者に分類できる。大学進学者は自県進学者と他県進学者(以降、「他県への進学者」と表記)に分類できる(図2)。つまり、自県進学率とは、学生がまず大学に進学するかどうかを決め、その上で進学先が県内の大学であるのか、それとも県外の大学であるのかを選ぶことを意味する。

3年前の中学校卒業生、3年前の義務教育学校卒業生、3年前の中等教育学校前期課程修了者の合計が18歳人口であり、そのうちの大学(学部)に進学した者の割合が大学進学率である(式1)。これは文部科学省が学校基本調査で大学(学部)進学率を求める際に用いられる計算式である。そ

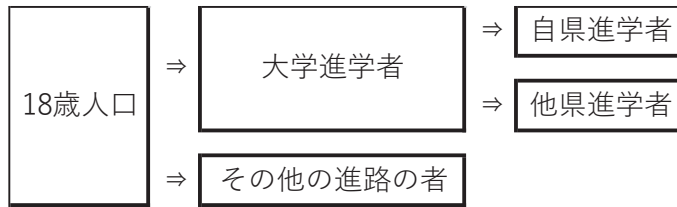


図2 18歳人口の内訳

$$(式1) \quad \text{大学進学率} = \frac{\text{大学(学部)の入学者}}{\text{18歳人口(3年前の中学校・義務教育学校卒業者および中等教育学校前期課程修了者)}}$$

$$(式2) \quad \text{自県進学率} = \frac{\text{出身高校の所在地県内にある大学への進学者}}{\text{県内に所在する高校を卒業した大学進学者}}$$

して、県内に所在する高校を卒業した大学進学者のうち、その県にある大学への進学者の割合を自県進学率と呼ぶことがある(式2)。

(2) 大学進学率および自県進学率

都道府県別の大学進学率および自県進学率等を男女別に示す(表1)。各指標について、上位であるほど赤色、下位であるほど青色、中間は白色になるカラースケールを施した。また、上位12県および下位12県について太字を施した。以降では、赤色の太字を「高い(または、多い)」と、青色の太字を「低い(または、少ない)」とみなし、それ以外を「中程度」とみなすことにする。また、男女差を可視化するために、男子の結果から女子の結果を減じた値を算出した。そして、男子が女子よりも多ければプラスの値に、女子が男子よりも多ければマイナスの値となるデータバーを施した。そして、差分の絶対値が大きい3県について太字を施した。

男子の自県進学率と女子の自県進学率との間には強い正の相関($r=.95$)がみられた。両者の分布はほぼ一致していることが分かる。最も自県進学率が高いのは男女ともに愛知であった(男子:68.4%、女子:76.2%)。最も大学数の多い(144校)東京よりも愛知の自県進学率は高かった。

男子の自県進学率と大学数との間には比較的強い正の相関($r=.69$)がみられた。男子の自県進学率の上位5県(愛知、東京、北海道、福岡、大

阪)は大学数が多い県であった。男子の自県進学率の下位5県(島根、長野、佐賀、鳥取、奈良)のうち3県(島根、佐賀、鳥取)は大学数が少ない県であった。長野と奈良は大学数が中程度であるが自県進学率が低いとみることもできる。

男子の自県進学率と大学進学率との間には正の相関(男子、 $r=.34$;女子、 $r=.41$)がみられた。しかし、両者の分布が全体の傾向と一致しない県もあった。たとえば、熊本は、男子の場合、自県進学率が高いものの(41.9%)大学進学率が低かった(44.6%)。また、奈良は男女ともに自県進学率が低い(男子:12.1%、女子:18.3%)ものの、大学進学率が高かった(男子:65.2%、59.8%)。

なお、全体的に大学進学率は男子の方が女子よりも高かった。山梨は男女ともに大学進学率が高かった(男子:78.7%、女子:62.8%)が、男子は女子よりも15.8%も高かった。また、全体的に自県進学率は女子の方が男子よりも高かった。兵庫は男子の自県進学率が中程度(36.6%)であったが女子は高かった(54.0%)。女子は男子よりも17.4%も高かった。

表1 都道府県別の大学進学率および自県進学率等

大学数	男子		女子		差分(男子-女子)		
	大学	自県	大学	自県	大学	自県	
	進学率 (%)	進学率 (%)	進学率 (%)	進学率 (%)	進学率 (%)	進学率 (%)	
愛知	52	58.1	68.4	54.0	76.2	4.2	-7.8
東京	144	78.3	65.4	76.9	71.3	1.4	-5.9
北海道	37	55.5	64.8	45.7	66.6	9.8	-1.9
福岡	35	53.0	63.5	48.9	67.0	4.1	-3.6
大阪	58	66.0	62.7	58.1	56.1	7.9	6.6
宮城	14	53.6	54.1	47.2	56.2	6.4	-2.0
広島	21	59.0	49.1	56.4	56.2	2.7	-7.1
京都	34	74.2	48.1	70.6	58.9	3.6	-10.9
石川	14	58.4	45.5	53.0	50.2	5.4	-4.7
熊本	9	44.6	41.9	44.1	49.9	0.5	-8.0
神奈川	33	63.1	41.3	56.3	37.8	6.8	3.6
沖縄	8	54.0	38.9	53.0	40.7	1.0	-1.8
新潟	22	51.6	37.9	44.0	43.3	7.6	-5.4
兵庫	35	61.3	36.6	58.3	54.0	3.0	-17.4
千葉	27	61.7	35.8	53.5	32.4	8.2	3.4
青森	10	47.9	35.5	42.5	41.0	5.4	-5.5
岡山	18	58.2	35.4	54.3	46.4	3.9	-11.1
鹿児島	6	46.1	33.3	38.1	35.3	8.0	-2.0
長崎	8	45.2	31.4	40.6	44.5	4.5	-13.1
徳島	4	51.2	31.1	53.1	42.1	-1.9	-11.0
福井	6	60.0	30.2	52.6	34.2	7.4	-3.9
埼玉	28	61.8	30.1	50.4	28.3	11.4	1.9
愛媛	5	53.4	29.7	49.0	40.1	4.4	-10.4
大分	5	45.4	27.7	38.0	27.8	7.4	-0.1
群馬	15	53.8	26.6	47.3	39.7	6.5	-13.1
静岡	14	55.6	26.1	47.0	31.1	8.6	-4.9
岩手	6	42.1	24.6	39.7	31.7	2.3	-7.1
栃木	9	55.5	24.5	48.5	26.9	7.0	-2.4
秋田	7	42.7	24.2	37.4	25.7	5.3	-1.5
福島	8	44.8	23.5	39.3	20.8	5.6	2.7
滋賀	9	57.8	23.3	48.0	20.9	9.7	2.4
宮崎	7	42.9	22.0	37.1	30.9	5.8	-8.9
三重	7	50.3	20.5	43.6	25.9	6.7	-5.3
山口	10	43.4	20.3	41.6	27.5	1.8	-7.2
山梨	7	78.7	20.2	62.8	26.1	15.8	-6.0
高知	5	53.3	20.1	49.6	31.0	3.8	-10.9
岐阜	13	54.4	18.5	47.3	25.4	7.1	-6.8
山形	7	44.4	18.1	39.6	24.9	4.8	-6.8
富山	5	51.3	18.1	48.1	21.4	3.2	-3.3
茨城	11	63.0	17.2	55.9	20.9	7.1	-3.8
和歌山	5	55.6	16.8	48.1	22.4	7.5	-5.6
香川	4	59.6	16.3	52.7	18.6	6.9	-2.3
島根	2	48.9	15.5	43.2	25.1	5.8	-9.5
長野	11	52.7	15.1	47.1	23.3	5.6	-8.3
佐賀	2	45.3	13.5	40.0	17.7	5.2	-4.2
鳥取	3	48.9	12.6	43.6	17.9	5.3	-5.3
奈良	10	65.2	12.1	59.8	18.3	5.4	-6.1
相関	.69	.34	1	.41	.95		

3 都道府県別の県内学生数

(1) 県内学生数の内訳

県内学生数の内訳は、自県の高校を卒業し、自県の大学に進学する「自県進学者」、他県の高校を卒業して自県の大学に進学する「他県からの進学者」、さらには留学生等を含む「その他」としてカウントされる者に分類できる（図3）。「その

他」とは、「外国において、学校教育における12年の課程を修了した者」「専修学校高等課程の修了者」および「高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者」等である。

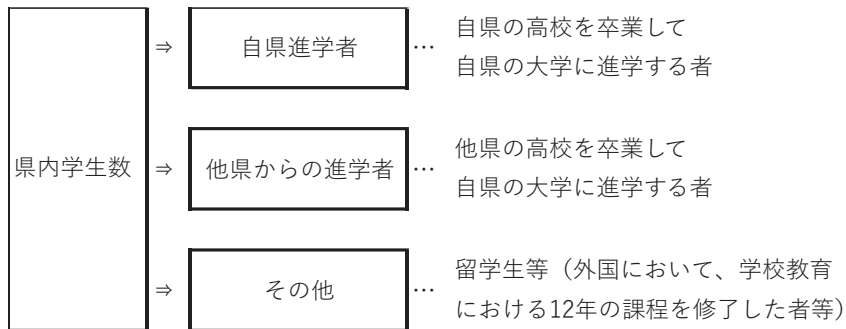


図3 県内学生数の内訳

自県進学を高めるアプローチには、他県へ進学する意向のある学生を自県の大学へ進学するように促すこと、大学進学の手配がない者を自県の大学へ進学するように促すことが含まれる。他県への進学者の中には、住民票を他県に移す者もあり、これらは転出者数としてカウントされ、その県の人口減少の要因となる。しかし、これらの学生が自県進学者となれば、自県の人口減少の抑制につながることを期待できる。

(2) 近隣からの移動か？遠方からの移動か？

進学に伴う都道府県間の移動は人口の増減に影響を与える要因として重要である。他県からの進学者の中には、住民票を自県に移す者もあり、これらは転入者数としてカウントされ、その県の人口増加の要因となる。

ただし、転出者としてカウントされる「他県への進学者」、転入者としてカウントされる「他県からの進学者」は全体の一部に過ぎない。自宅のある自県から他県の大学に通学する者（たとえば、埼玉にある自宅から東京の大学に通学する者）も

いるためである。

このため、他県へ進学する学生がどれだけ遠方の他県に進学するのか、また他県からの進学者がどれだけ遠方から進学してくるのかを把握することは、政策立案や支援策の考案のためにも重要である。これは、他県進学者（「他県への進学者」と「他県からの進学者」の両方を含む）について、近隣の者と遠方の者を区別することを意味している。

ひとつの方法として考えられるのは、エリアを単位として使用することである。すなわち、自エリア内の他県を近隣として、自エリア外の他県を遠方とみなすことである。しかし、このアプローチは、自エリア内であればどの他県も等質とみなすことに問題がある。たとえば、神奈川の学生にとって、東京と栃木は同じように近隣とはいえない。このようにエリアを単位とすることは、実際には近隣ではない県を近隣として捉えてしまう恐れがある。

そこで、本研究では地元と認識する他県に注目する。

4 地元と認識する他県

(1) 定義

田澤 (2018) は、地元意識について2つの水準を設けた。ひとつ目の水準は、高校所在地がある県を地元とすることである。これは一般的に生徒が自宅から通学するためである。ふたつ目の水準は、学生が地元と認識する他県を地元とすることである。両者を合わせたものを田澤 (2018) は地元意識の広さと呼んだ。

地元と認識する他県については、マイナビの「大学生Uターン・地元就職に関する調査」を用いて分類することにする。同調査においては、学生が地元と認識する範囲についての質問項目がある。すなわち、「あなたが『地元(Uターン先含む)』だと認識する範囲の都道府県を選択してください」という教示に対して、モニターの学生が47都道府県から複数選択が可能のように回答したものである。この調査では、その県を地元と認識している割合が20%以上を示したものを抽出している。

本研究では、マイナビ (2020, 2021, 2022, 2023) を集約し、一度でも回答された県について、地元と認識する他県と定義した。これらを集約しても地元と認識されていない他県はその県出身の学生にとっては心理的に遠いと感じている可能性が高い。

結果を表2に示す。北海道、宮城、新潟、山梨、長野、静岡、福井、高知、福岡、沖縄の学生は地元と認識する他県がなかった。それ以外の県の学生は地元と認識する他県が1つ以上存在した。

なお、この手続きは田澤 (2018, 2019, 2020) と同様であるが、集約する調査の年度が異なるため、地元意識の広さの結果は田澤 (2018, 2019, 2020) と本研究では一部異なる。地元と認識する他県の特徴を考慮して、本研究では、11エリア (北海道、東北、関東、甲信越、東海、北陸、関西、中国、四国、九州、沖縄) に分類した。

表2 地元と認識する他県

エリア	都道府県	地元と認識する他県			
北海道	北海道				
東北	青森	岩手	宮城		
	岩手	青森	宮城		
	宮城				
	秋田	岩手	宮城		
	山形	宮城	秋田		
	福島	宮城	山形		
関東	茨城	千葉			
	栃木	茨城	群馬		
	群馬	栃木	埼玉		
	埼玉	東京			
	千葉	東京			
	東京	埼玉	千葉	神奈川	
	神奈川	東京			
甲信越	新潟				
	山梨				
	長野				
東海	岐阜	愛知	三重		
	静岡				
	愛知	岐阜	静岡	三重	
	三重	愛知			
北陸	富山	石川			
	石川	富山	福井		
	福井				
関西	滋賀	京都	大阪		
	京都	滋賀	大阪	兵庫	
	大阪	京都	兵庫		
	兵庫	京都	大阪		
	奈良	京都	大阪	兵庫	
	和歌山	京都	大阪	兵庫	
中国	鳥取	島根	岡山	広島	
	島根	鳥取	広島		
	岡山	広島			
	広島	岡山			
	山口	広島	福岡		
四国	徳島	香川	愛媛		
	香川	岡山	徳島	愛媛	
	愛媛	徳島	香川		
	高知				
九州	福岡				
	佐賀	福岡	長崎		
	長崎	福岡	佐賀		
	熊本	福岡			
	大分	福岡	熊本		
	宮崎	福岡	鹿児島		
	鹿児島	福岡	熊本	宮崎	
沖縄	沖縄				

(2) エリアごとの地元意識

以降には、エリアごとの地元意識について地図上で示す。他県を自分の地元と認識している結果(表2)に基づき、両県が互いに地元と認識している場合を「双方向的な地元意識」とし、ある県が他県を地元と認識しているものの、その県からは地元と認識されていない場合を「一方向的な地元意識」とする。前者は「⇔」で、後者は「→」で地図上に示す。なお、視認性を優先するため、以降の図では一部の島を省略して表示する。

①北海道エリア

北海道の学生は他県を地元とは認識していなかった。

②東北エリア

宮城は東北エリア内すべての他県(青森、岩手、秋田、山形、福島)の学生から地元と認識されていた(図4)。しかし、宮城の学生は他県を地元とは認識していなかった。すなわち、一方向的な地元意識がみられた。青森と岩手はお互いに地元と認識していた。すなわち、双方向的な地元意識がみられた。



図4 東北エリアの地元意識

注1. ⇔ …双方向的な地元意識
注2. → …一方向的な地元意識

③関東エリア

埼玉-東京間、千葉-東京間、神奈川-東京間で双方向的な地元意識がみられた(図5)。すなわち、南関東の4県は東京を中心としてお互いに地元と認識していた。一方、北関東の3県においては群馬-栃木間で双方向的な地元意識がみられた。また、栃木の学生は茨城を、茨城の学生は千葉を、群馬の学生は埼玉を地元と認識していた。これらは一方向的な地元意識であった。



図5 関東エリアの地元意識

注1. ⇔ …双方向的な地元意識
注2. → …一方向的な地元意識

④甲信越エリア

新潟、山梨、長野の学生は他県を地元とは認識していなかった。

⑤東海エリア

岐阜-愛知間、三重-愛知間で双方向的な地元意識がみられた(図6)。また、岐阜の学生は三重を、愛知の学生は静岡を地元と認識していた。これらは一方向的な地元意識であった。



図6 東海エリアの地元意識

注1. ⇔ …双方向的な地元意識
注2. → …一方向的な地元意識

⑥北陸エリア

石川－富山間で双方向的な地元意識がみられた(図7)。また、石川の学生は福井を地元と認識していた。これは一方向的な地元意識であった。



図7 北陸エリアの地元意識

注1. ↔ …双方向的な地元意識
2. → …一方向的な地元意識

⑦関西エリア

京都と大阪は関西エリア内すべての他県の学生から地元と認識されていた(図8)。なお、京都－大阪－兵庫の三者間で双方向的な地元意識がみられた。すなわち、京都の学生は大阪と兵庫を、兵庫の学生は京都と大阪を、大阪の学生は京都と兵庫を地元と認識していた。双方向的な地元意識は京都－滋賀間でもみられた。上記以外では、奈良と和歌山の学生は兵庫を地元と認識しており、滋賀の学生は大阪を地元と認識していた。これらは一方向的な地元意識であった。



図8 関西エリアの地元意識

注1. ↔ …双方向的な地元意識
2. → …一方向的な地元意識

⑧中国エリア

広島は中国エリア内すべての他県(鳥取、島根、岡山、山口)の学生から地元と認識されていた(図9)。しかし、広島の学生が地元と認識する他県は岡山のみであった。すなわち、鳥取、島根、山口の学生には広島に対する一方向的な地元意識がみられた。双方向的な地元意識がみられたのは、岡山－広島間、鳥取－島根間であった。なお、山口の学生は福岡を地元と認識していた。この結果は、自エリア(中国エリアであれば、鳥取、島根、岡山、広島、山口)に含まれない他県であっても地元と認識することがあることを示している。



図9 中国エリアの地元意識

注1. ↔ …双方向的な地元意識
2. → …一方向的な地元意識

⑨四国エリア

徳島－香川間、徳島－愛媛間、香川－愛媛間で双方向的な地元意識がみられた(図10)。香川の学生は岡山を地元と認識していた。この結果は、自エリア(四国エリアであれば徳島、香川、愛媛、高知)に含まれない他県であっても地元と認識することがあることを示している。



図10 四国エリアの地元意識

注1. ↔ …双方向的な地元意識
2. → …一方向的な地元意識

⑩九州エリア

福岡は九州エリア内すべての他県（佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）の学生から地元と認識されていた（図11）。しかし、福岡の学生は他県を地元とは認識していなかった。すなわち、一方向的な地元意識がみられた。佐賀－長崎間、宮崎－鹿児島間で双方向的な地元意識がみられた。また、大分と鹿児島島の学生は熊本を地元と認識していた。これらは一方向的な地元意識であった。



図11 九州エリアの地元意識

- 注1. ⇔ …双方向的な地元意識
2. → …一方向的な地元意識

⑪沖縄エリア

沖縄の学生は他県を地元とは認識していなかった。

5 他県進学者はどの県に行ったのか？

上記までには、他県進学者を近隣の者と遠方の者に分類するために、地元と認識する他県について説明してきた。本節では、地元と認識する他県の特徴を明らかにするために各県における進学先の上位13県を示す(表3～表13)。表中において、自県は網掛けを、学生が地元と認識する他県は太字を施し、東京は四角で示した。なお、1位から13位までの順位を示しているが、人数が同じ場合には同率順位となることがある。該当する県は下線を施した。

すべての県の男女において、自県または東京が

上位に含まれていることが分かる。それだけでなく、すべての県の男女において、進学先の上位13県の中に学生が地元と認識する他県が含まれていることも分かる。

それに対し、自エリア内の他県は必ずしも進学先の上位13県には含まれていなかった。たとえば、神奈川の進学先で栃木は男子が18位（29人）、女子が22位（11人）であり、兵庫の進学先で和歌山は21位（56人）、女子は23位（32人）であった。これらの結果は、自エリア内の他県が一概に同じ価値を持つわけではないことを示している。

また、香川における進学先のうち、岡山が男子で3位（10.9%）、女子で2位（14.3%）であったこと、山口における進学先で福岡が男子で1位（20.9%）、女子で2位（17.5%）であったことは、自エリア内の他県だけを近隣と捉えることの限界を示している。

これらの結果から、地元と認識する他県という指標が、進学者の進学先選択と関連があることが明らかになった。

表3 進学先の上位13県（北海道）

		北海道			
		男子		女子	
		n=	(%)	n=	(%)
1位	北海道	7,748	64.8	北海道	6,380 66.6
2位	東京	1,253	10.5	東京	1,045 10.9
3位	神奈川	384	3.2	神奈川	303 3.2
4位	大阪	280	2.3	京都	199 2.1
5位	青森	254	2.1	大阪	194 2.0
6位	京都	235	2.0	青森	162 1.7
7位	埼玉	215	1.8	千葉	158 1.7
8位	千葉	206	1.7	埼玉	138 1.4
9位	兵庫	148	1.2	兵庫	137 1.4
10位	愛知	137	1.1	愛知	124 1.3
11位	宮城	125	1.0	宮城	64 0.7
12位	静岡	82	0.7	福岡	50 0.5
13位	茨城	76	0.6	静岡	45 0.5

表4 進学先の上位13県（青森～福島）

		青 森				岩 手						
		男子		女子		男子		女子				
		n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)			
1位	青 森	928	35.5	青 森	923	41.0	岩 手	559	24.6	岩 手	666	31.7
2位	宮 城	340	13.0	宮 城	276	12.3	宮 城	458	20.2	宮 城	379	18.1
3位	東 京	308	11.8	東 京	263	11.7	東 京	280	12.3	東 京	239	11.4
4位	北 海 道	220	8.4	北 海 道	140	6.2	北 海 道	157	6.9	北 海 道	105	5.0
5位	岩 手	119	4.6	岩 手	115	5.1	青 森	127	5.6	青 森	99	4.7
6位	神 奈 川	100	3.8	神 奈 川	84	3.7	神 奈 川	124	5.5	神 奈 川	81	3.9
7位	千 葉	98	3.8	千 葉	73	3.2	埼 玉	90	4.0	山 形	70	3.3
8位	埼 玉	97	3.7	埼 玉	61	2.7	千 葉	79	3.5	千 葉	59	2.8
9位	福 島	42	1.6	秋 田	54	2.4	山 形	56	2.5	栃 木	55	2.6
10位	群 馬	39	1.5	山 形	41	1.8	秋 田	52	2.3	秋 田	52	2.5
11位	山 形	37	1.4	群 馬	27	1.2	福 島	50	2.2	埼 玉	49	2.3
12位	栃 木	36	1.4	京 都	22	1.0	栃 木	43	1.9	福 島	42	2.0
13位	新 潟	35	1.3	茨 城	22	1.0	茨 城	29	1.3	山 梨	35	1.7

		宮 城				秋 田						
		男子		女子		男子		女子				
		n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)			
1位	宮 城	2,963	54.1	宮 城	2,576	56.2	秋 田	413	24.2	秋 田	365	25.7
2位	東 京	618	11.3	東 京	577	12.6	宮 城	241	14.1	宮 城	239	16.8
3位	山 形	309	5.6	山 形	297	6.5	東 京	189	11.1	東 京	185	13.0
4位	神 奈 川	231	4.2	神 奈 川	180	3.9	新 潟	121	7.1	新 潟	82	5.8
5位	埼 玉	188	3.4	埼 玉	129	2.8	神 奈 川	97	5.7	青 森	82	5.8
6位	千 葉	152	2.8	千 葉	116	2.5	北 海 道	87	5.1	岩 手	72	5.1
7位	岩 手	146	2.7	岩 手	111	2.4	青 森	84	4.9	神 奈 川	70	4.9
8位	福 島	130	2.4	福 島	107	2.3	埼 玉	80	4.7	埼 玉	50	3.5
9位	北 海 道	121	2.2	新 潟	66	1.4	千 葉	73	4.3	北 海 道	50	3.5
10位	新 潟	79	1.4	京 都	49	1.1	岩 手	69	4.0	千 葉	48	3.4
11位	京 都	67	1.2	北 海 道	46	1.0	山 形	35	2.0	山 形	46	3.2
12位	青 森	55	1.0	茨 城	37	0.8	福 島	34	2.0	福 島	20	1.4
13位	秋 田	52	0.9	栃 木	34	0.7	栃 木	27	1.6	群 馬	18	1.3

		山 形				福 島						
		男子		女子		男子		女子				
		n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)			
1位	宮 城	412	18.8	山 形	463	24.9	福 島	897	23.5	東 京	716	22.6
2位	山 形	397	18.1	宮 城	383	20.6	東 京	744	19.5	福 島	660	20.8
3位	東 京	295	13.5	東 京	286	15.4	宮 城	500	13.1	宮 城	453	14.3
4位	神 奈 川	189	8.6	新 潟	144	7.8	神 奈 川	273	7.2	神 奈 川	210	6.6
5位	新 潟	168	7.7	神 奈 川	108	5.8	埼 玉	252	6.6	栃 木	194	6.1
6位	千 葉	136	6.2	千 葉	83	4.5	千 葉	244	6.4	埼 玉	190	6.0
7位	埼 玉	105	4.8	埼 玉	59	3.2	新 潟	179	4.7	千 葉	164	5.2
8位	福 島	71	3.2	福 島	49	2.6	栃 木	173	4.5	新 潟	145	4.6
9位	北 海 道	52	2.4	北 海 道	37	2.0	茨 城	105	2.8	茨 城	105	3.3
10位	岩 手	44	2.0	栃 木	36	1.9	山 形	94	2.5	山 形	93	2.9
11位	秋 田	38	1.7	群 馬	27	1.5	北 海 道	55	1.4	群 馬	47	1.5
12位	群 馬	36	1.6	秋 田	27	1.5	群 馬	51	1.3	岩 手	27	0.9
13位	石 川	36	1.6	岩 手	25	1.3	岩 手	38	1.0	山 梨	26	0.8

表5 進学先の上位13県（茨城～群馬）

	茨 城						栃 木					
	男子			女子			男子			女子		
	n=		(%)	n=		(%)	n=		(%)	n=		(%)
1位	東 京	2,706	24.8	東 京	2,669	37.2	東 京	1,257	24.8	東 京	1,203	29.0
2位	茨 城	1,458	2.4	茨 城	1,504	20.9	栃 木	1,242	24.5	栃 木	1,118	26.9
3位	千 葉	1,272	6.8	千 葉	896	12.5	埼 玉	635	12.5	埼 玉	514	12.4
4位	埼 玉	778	12.5	埼 玉	537	7.5	神奈川	374	7.4	神奈川	291	7.0
5位	神奈川	640	7.4	神奈川	469	6.5	千 葉	343	6.8	群 馬	245	5.9
6位	栃 木	307	24.5	栃 木	243	3.4	群 馬	200	3.9	千 葉	194	4.7
7位	福 島	199	2.8	群 馬	110	1.5	福 島	140	2.8	茨 城	84	2.0
8位	群 馬	121	3.9	宮 城	93	1.3	宮 城	132	2.6	新 潟	60	1.4
9位	宮 城	117	2.6	福 島	70	1.0	茨 城	121	2.4	宮 城	57	1.4
10位	北海道	102	1.3	北海道	59	0.8	新 潟	89	1.8	福 島	55	1.3
11位	京 都	82	0.8	京 都	51	0.7	山 形	73	1.4	山 形	38	0.9
12位	大 阪	74	0.5	山 梨	50	0.7	北海道	68	1.3	京 都	29	0.7
13位	愛 知	72	0.4	愛 知	48	0.7	静 岡	54	1.1	長 野	29	0.7
										静 岡	29	0.7

	群 馬					
	男子			女子		
	n=		(%)	n=		(%)
1位	群 馬	1,310	26.6	群 馬	1,634	39.7
2位	東 京	1,165	23.7	東 京	1,034	25.1
3位	埼 玉	792	16.1	埼 玉	474	11.5
4位	神奈川	355	7.2	神奈川	230	5.6
5位	千 葉	237	4.8	千 葉	135	3.3
6位	栃 木	185	3.8	栃 木	99	2.4
7位	宮 城	97	2.0	新 潟	73	1.8
8位	新 潟	90	1.8	京 都	49	1.2
9位	石 川	86	1.7	茨 城	48	1.2
10位	茨 城	74	1.5	長 野	42	1.0
11位	京 都	73	1.5	石 川	35	0.9
12位	福 島	60	1.2	宮 城	34	0.8
13位	北海道	57	1.2	山 梨	31	0.8

表6 進学先の上位13県(埼玉~神奈川)

	埼玉						千葉					
	男子			女子			男子			女子		
	n=		(%)	n=		(%)	n=		(%)	n=		(%)
1位	東京	9,544	48.1	東京	8,783	57.2	東京	7,121	42.0	東京	6,991	50.4
2位	埼玉	5,978	30.1	埼玉	4,339	28.3	千葉	6,066	35.8	千葉	4,500	32.4
3位	千葉	1,330	6.7	千葉	644	4.2	神奈川	1,373	8.1	神奈川	866	6.2
4位	神奈川	1,263	6.4	神奈川	634	4.1	埼玉	950	5.6	埼玉	759	5.5
5位	群馬	338	1.7	群馬	269	1.8	茨城	369	2.2	茨城	154	1.1
6位	茨城	203	1.0	茨城	91	0.6	北海道	136	0.8	京都	66	0.5
7位	栃木	149	0.8	栃木	85	0.6	宮城	97	0.6	愛知	61	0.4
8位	北海道	145	0.7	北海道	63	0.4	京都	85	0.5	群馬	57	0.4
9位	宮城	141	0.7	山梨	53	0.3	静岡	83	0.5	北海道	45	0.3
10位	京都	87	0.4	京都	47	0.3	愛知	69	0.4	大阪	43	0.3
11位	山梨	62	0.3	大阪	42	0.3	群馬	63	0.4	静岡	33	0.2
12位	福島	59	0.3	宮城	31	0.2	大阪	62	0.4	山梨	31	0.2
13位	大阪	58	0.3	長野	29	0.2	山梨	43	0.3	長野	26	0.2

	東京						神奈川					
	男子			女子			男子			女子		
	n=		(%)	n=		(%)	n=		(%)	n=		(%)
1位	東京	26,517	65.4	東京	27,751	71.3	東京	11,886	48.2	東京	11,504	55.1
2位	神奈川	5,413	13.4	神奈川	4,952	12.7	神奈川	10,195	41.3	神奈川	7,885	37.8
3位	埼玉	2,893	7.1	埼玉	2,500	6.4	千葉	604	2.4	埼玉	333	1.6
4位	千葉	2,735	6.7	千葉	1,782	4.6	埼玉	515	2.1	千葉	296	1.4
5位	北海道	360	0.9	山梨	283	0.7	北海道	213	0.9	山梨	132	0.6
6位	京都	330	0.8	京都	206	0.5	京都	132	0.5	北海道	94	0.5
7位	茨城	295	0.7	北海道	201	0.5	静岡	125	0.5	京都	87	0.4
8位	宮城	223	0.6	茨城	164	0.4	茨城	105	0.4	静岡	64	0.3
9位	山梨	193	0.5	群馬	122	0.3	山梨	97	0.4	大阪	50	0.2
10位	群馬	146	0.4	大阪	97	0.2	宮城	90	0.4	茨城	47	0.2
11位	大阪	141	0.3	宮城	81	0.2	大阪	70	0.3	愛知	32	0.2
12位	静岡	124	0.3	兵庫	67	0.2	愛知	59	0.2	群馬	30	0.1
13位	長野	111	0.3	愛知	64	0.2	群馬	53	0.2	兵庫	30	0.1

表7 進学先の上位13県(新潟～福井)

新 潟						山 梨						
男子			女子			男子			女子			
	n=	(%)	n=	(%)		n=	(%)	n=	(%)			
1位	新 潟	1,916	37.9	新 潟	1,784	43.3	東 京	946	32.1	東 京	788	35.2
2位	東 京	909	18.0	東 京	806	19.6	山 梨	595	20.2	山 梨	586	26.1
3位	神奈川	425	8.4	神奈川	295	7.2	神奈川	391	13.2	神奈川	249	11.1
4位	埼 玉	325	6.4	埼 玉	226	5.5	千 葉	154	5.2	埼 玉	84	3.7
5位	千 葉	234	4.6	千 葉	136	3.3	埼 玉	136	4.6	静 岡	63	2.8
6位	石 川	202	4.0	群 馬	103	2.5	静 岡	89	3.0	千 葉	57	2.5
7位	宮 城	112	2.2	石 川	98	2.4	長 野	86	2.9	京 都	57	2.5
8位	福 島	82	1.6	京 都	66	1.6	愛 知	67	2.3	愛 知	56	2.5
9位	群 馬	79	1.6	山 形	63	1.5	大 阪	64	2.2	大 阪	48	2.1
10位	長 野	77	1.5	宮 城	62	1.5	京 都	61	2.1	長 野	42	1.9
11位	京 都	68	1.3	長 野	61	1.5	北 海 道	36	1.2	兵 庫	21	0.9
12位	北 海 道	67	1.3	山 梨	37	0.9	群 馬	33	1.1	新 潟	19	0.8
13位	山 形	67	1.3	大 阪	37	0.9	石 川	28	0.9	群 馬	19	0.8
				富 山	37	0.9						
長 野						富 山						
男子			女子			男子			女子			
	n=	(%)	n=	(%)		n=	(%)	n=	(%)			
1位	東 京	1,173	22.7	東 京	1,050	24.1	石 川	535	22.1	富 山	472	21.4
2位	長 野	778	15.1	長 野	1,017	23.3	富 山	439	18.1	石 川	356	16.2
3位	神奈川	510	9.9	神奈川	368	8.4	東 京	261	10.8	東 京	319	14.5
4位	愛 知	375	7.3	愛 知	299	6.9	愛 知	180	7.4	京 都	147	6.7
5位	埼 玉	343	6.6	埼 玉	248	5.7	京 都	123	5.1	愛 知	141	6.4
6位	千 葉	314	6.1	千 葉	165	3.8	神奈川	101	4.2	新 潟	99	4.5
7位	石 川	236	4.6	群 馬	163	3.7	大 阪	101	4.2	大 阪	91	4.1
8位	群 馬	188	3.6	新 潟	139	3.2	新 潟	89	3.7	神奈川	83	3.8
9位	新 潟	168	3.3	山 梨	137	3.1	福 井	69	2.8	岐 阜	49	2.2
10位	山 梨	145	2.8	京 都	130	3.0	埼 玉	56	2.3	長 野	48	2.2
11位	京 都	101	2.0	石 川	93	2.1	千 葉	54	2.2	埼 玉	48	2.2
12位	大 阪	94	1.8	富 山	70	1.6	長 野	53	2.2	兵 庫	45	2.0
13位	静 岡	90	1.7	大 阪	65	1.5	滋 賀	42	1.7	千 葉	42	1.9
石 川						福 井						
男子			女子			男子			女子			
	n=	(%)	n=	(%)		n=	(%)	n=	(%)			
1位	石 川	1,363	45.5	石 川	1,342	50.2	福 井	672	30.2	福 井	632	34.2
2位	東 京	254	8.5	東 京	206	7.7	京 都	247	11.1	京 都	270	14.6
3位	京 都	206	6.9	京 都	197	7.4	大 阪	242	10.9	東 京	141	7.6
4位	富 山	181	6.0	富 山	130	4.9	石 川	207	9.3	大 阪	141	7.6
5位	大 阪	160	5.3	大 阪	130	4.9	愛 知	158	7.1	愛 知	130	7.0
6位	愛 知	130	4.3	愛 知	99	3.7	東 京	151	6.8	石 川	116	6.3
7位	福 井	81	2.7	兵 庫	95	3.6	滋 賀	68	3.1	兵 庫	75	4.1
8位	神奈川	60	2.0	神奈川	70	2.6	兵 庫	67	3.0	富 山	45	2.4
9位	兵 庫	60	2.0	福 井	57	2.1	神奈川	65	2.9	滋 賀	43	2.3
10位	滋 賀	52	1.7	新 潟	51	1.9	富 山	46	2.1	神奈川	38	2.1
11位	新 潟	50	1.7	滋 賀	33	1.2	千 葉	31	1.4	岐 阜	33	1.8
12位	北 海 道	45	1.5	奈 良	25	0.9	岐 阜	28	1.3	奈 良	20	1.1
13位	埼 玉	43	1.4	長 野	24	0.9	広 島	25	1.1	埼 玉	16	0.9

表8 進学先の上位13県（岐阜～三重）

		岐 阜				静 岡			
		男子		女子		男子		女子	
		n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)
1位	愛 知	2,474	47.7	愛 知	2,075	48.1	静 岡	2,499	26.1
2位	岐 阜	962	18.5	岐 阜	1,096	25.4	東 京	1,663	17.4
3位	東 京	303	5.8	東 京	226	5.2	愛 知	1,213	12.7
4位	京 都	165	3.2	京 都	141	3.3	神奈川	1,180	12.3
5位	大 阪	147	2.8	大 阪	82	1.9	千 葉	417	4.4
6位	滋 賀	141	2.7	神奈川	69	1.6	大 阪	270	2.8
7位	富 山	101	1.9	滋 賀	68	1.6	京 都	269	2.8
8位	神奈川	93	1.8	静 岡	59	1.4	埼 玉	258	2.7
9位	石 川	91	1.8	兵 庫	57	1.3	山 梨	193	2.0
10位	静 岡	76	1.5	長 野	53	1.2	北 海 道	143	1.5
11位	長 野	63	1.2	石 川	52	1.2	長 野	128	1.3
12位	福 井	58	1.1	三 重	41	0.9	滋 賀	125	1.3
13位	三 重	58	1.1	富 山	34	0.8	石 川	122	1.3

		愛 知				三 重			
		男子		女子		男子		女子	
		n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)
1位	愛 知	14,109	68.4	愛 知	14,095	76.2	愛 知	1,486	35.1
2位	東 京	1,157	5.6	東 京	862	4.7	三 重	870	20.5
3位	京 都	688	3.3	京 都	567	3.1	大 阪	387	9.1
4位	岐 阜	657	3.2	岐 阜	564	3.0	京 都	257	6.1
5位	大 阪	430	2.1	大 阪	294	1.6	東 京	245	5.8
6位	静 岡	425	2.1	三 重	275	1.5	滋 賀	117	2.8
7位	神奈川	382	1.9	神奈川	259	1.4	神奈川	77	1.8
8位	滋 賀	335	1.6	静 岡	233	1.3	兵 庫	76	1.8
9位	三 重	327	1.6	兵 庫	167	0.9	静 岡	68	1.6
10位	富 山	204	1.0	滋 賀	145	0.8	岐 阜	59	1.4
11位	兵 庫	188	0.9	石 川	108	0.6	長 野	45	1.1
12位	長 野	178	0.9	長 野	98	0.5	広 島	44	1.0
13位	北 海 道	171	0.8	千 葉	78	0.4	埼 玉	43	1.0

表9 進学先の上位13県（滋賀～和歌山）

滋 賀					京 都				
男子			女子		男子			女子	
n=		(%)	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)	
1位	京 都	1,504	37.2	京 都	1,602	49.1	京 都	4,622	58.9
2位	滋 賀	942	23.3	滋 賀	682	20.9	大 阪	1,383	17.6
3位	大 阪	749	18.5	大 阪	497	15.2	滋 賀	529	6.7
4位	兵 庫	123	3.0	兵 庫	112	3.4	兵 庫	395	5.0
5位	愛 知	109	2.7	東 京	62	1.9	東 京	292	3.5
6位	東 京	98	2.4	愛 知	57	1.7	奈 良	146	1.7
7位	石 川	51	1.3	岐 阜	35	1.1	愛 知	88	1.1
8位	岐 阜	45	1.1	神奈川	22	0.7	神奈川	78	0.9
9位	福 井	39	1.0	福 井	20	0.6	北海道	59	0.7
10位	広 島	37	0.9	奈 良	16	0.5	石 川	43	0.5
11位	奈 良	32	0.8	石 川	15	0.5	福 井	43	0.5
12位	神奈川	31	0.8	岡 山	13	0.4	岡 山	40	0.5
13位	岡 山	22	0.5	福 岡	11	0.3	広 島	39	0.5
				三 重	11	0.3			
				徳 島	11	0.3			

大 阪					兵 庫				
男子			女子		男子			女子	
n=		(%)	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)	
1位	大 阪	16,049	62.7	大 阪	12,107	56.1	兵 庫	5,609	36.6
2位	京 都	3,271	12.8	京 都	3,578	16.6	大 阪	4,583	29.9
3位	兵 庫	1,872	7.3	兵 庫	3,040	14.1	京 都	1,379	9.0
4位	滋 賀	826	3.2	奈 良	763	3.5	東 京	587	3.8
5位	東 京	604	2.4	東 京	458	2.1	岡 山	418	2.7
6位	奈 良	562	2.2	滋 賀	427	2.0	滋 賀	315	2.1
7位	和歌山	493	1.9	和歌山	241	1.1	鳥 取	219	1.4
8位	神奈川	167	0.7	神奈川	113	0.5	徳 島	218	1.4
9位	北海道	149	0.6	北海道	73	0.3	広 島	197	1.3
10位	愛 知	146	0.6	愛 知	63	0.3	愛 知	159	1.0
11位	福 岡	109	0.4	岡 山	49	0.2	福 岡	151	1.0
12位	広 島	101	0.4	鳥 取	44	0.2	神奈川	145	0.9
13位	徳 島	99	0.4	福 岡	43	0.2	奈 良	121	0.8

奈 良					和歌山				
男子			女子		男子			女子	
n=		(%)	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)	
1位	大 阪	1,735	41.5	大 阪	1,184	33.3	大 阪	982	42.1
2位	京 都	756	18.1	京 都	786	22.1	和歌山	392	16.8
3位	奈 良	508	12.1	奈 良	650	18.3	京 都	210	9.0
4位	東 京	249	6.0	兵 庫	326	9.2	兵 庫	122	5.2
5位	兵 庫	230	5.5	東 京	146	4.1	東 京	97	4.2
6位	滋 賀	134	3.2	滋 賀	96	2.7	愛 知	47	2.0
7位	神奈川	66	1.6	愛 知	54	1.5	奈 良	42	1.8
8位	愛 知	65	1.6	神奈川	53	1.5	滋 賀	40	1.7
9位	北海道	46	1.1	北海道	33	0.9	神奈川	34	1.5
10位	和歌山	35	0.8	千 葉	23	0.6	岡 山	33	1.4
11位	福 岡	34	0.8	福 岡	17	0.5	広 島	30	1.3
12位	三 重	33	0.8	広 島	16	0.5	三 重	26	1.1
13位	広 島	32	0.8	岡 山	15	0.4	徳 島	26	1.1
				和歌山	15	0.4	神奈川	14	0.7

表 10 進学先の上位 13 県（鳥取～山口）

		鳥 取				鳥 根						
		男子		女子		男子		女子				
		n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)			
1位	大 阪	186	15.1	鳥 取	200	17.9	広 島	271	18.3	鳥 根	320	25.1
2位	鳥 取	155	12.6	兵 庫	133	11.9	鳥 根	230	15.5	広 島	219	17.1
3位	兵 庫	119	9.7	京 都	128	11.5	大 阪	174	11.7	岡 山	114	8.9
4位	広 島	104	8.5	大 阪	120	10.8	岡 山	108	7.3	大 阪	91	7.1
5位	京 都	98	8.0	鳥 根	100	9.0	東 京	84	5.7	兵 庫	79	6.2
6位	岡 山	93	7.6	岡 山	96	8.6	福 岡	78	5.3	京 都	66	5.2
7位	東 京	92	7.5	東 京	70	6.3	兵 庫	75	5.1	東 京	55	4.3
8位	鳥 根	66	5.4	広 島	62	5.6	京 都	74	5.0	山 口	55	4.3
9位	山 口	36	2.9	山 口	30	2.7	山 口	71	4.8	福 岡	48	3.8
10位	福 岡	36	2.9	滋 賀	17	1.5	鳥 取	42	2.8	鳥 取	40	3.1
11位	滋 賀	26	2.1	福 岡	16	1.4	神 奈 川	32	2.2	神 奈 川	21	1.6
12位	愛 知	25	2.0	奈 良	14	1.3	愛 媛	26	1.8	愛 媛	19	1.5
13位	神 奈 川	22	1.8	高 知	14	1.3	愛 知	25	1.7	高 知	15	1.2

		岡 山				広 島						
		男子		女子		男子		女子				
		n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)			
1位	岡 山	1,834	35.4	岡 山	2,108	46.4	広 島	3,738	49.1	広 島	3,915	56.2
2位	大 阪	496	9.6	兵 庫	311	6.9	大 阪	552	7.2	岡 山	409	5.9
3位	東 京	372	7.2	大 阪	307	6.8	東 京	459	6.0	東 京	397	5.7
4位	広 島	333	6.4	東 京	277	6.1	岡 山	392	5.1	大 阪	393	5.6
5位	京 都	317	6.1	京 都	267	5.9	京 都	364	4.8	兵 庫	308	4.4
6位	兵 庫	297	5.7	広 島	213	4.7	福 岡	319	4.2	京 都	305	4.4
7位	香 川	186	3.6	香 川	149	3.3	山 口	286	3.8	山 口	192	2.8
8位	福 岡	171	3.3	福 岡	84	1.9	兵 庫	250	3.3	福 岡	182	2.6
9位	山 口	111	2.1	山 口	69	1.5	愛 媛	241	3.2	愛 媛	158	2.3
10位	愛 媛	102	2.0	高 知	69	1.5	神 奈 川	127	1.7	神 奈 川	88	1.3
11位	愛 知	99	1.9	愛 知	69	1.5	滋 賀	102	1.3	鳥 根	77	1.1
12位	高 知	93	1.8	神 奈 川	68	1.5	鳥 根	97	1.3	滋 賀	58	0.8
13位	鳥 根	83	1.6	鳥 取	66	1.5	愛 知	71	0.9	高 知	45	0.6
	神 奈 川	83	1.6									

		山 口				
		男子		女子		
		n=	(%)	n=	(%)	
1位	福 岡	545	20.9	山 口	653	27.5
2位	山 口	531	20.3	福 岡	415	17.5
3位	広 島	367	14.1	広 島	341	14.4
4位	東 京	187	7.2	東 京	150	6.3
5位	大 阪	165	6.3	大 阪	134	5.7
6位	京 都	123	4.7	京 都	133	5.6
7位	岡 山	107	4.1	兵 庫	110	4.6
8位	兵 庫	93	3.6	岡 山	103	4.3
9位	神 奈 川	50	1.9	神 奈 川	37	1.6
10位	大 分	41	1.6	愛 知	24	1.0
11位	愛 知	37	1.4	長 崎	24	1.0
12位	長 崎	36	1.4	熊 本	23	1.0
13位	埼 玉	33	1.3	大 分	22	0.9

表 11 進学先の上位 13 県 (徳島～高知)

	徳 島				香 川							
	男子		女子		男子		女子					
	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)				
1位	徳島	512	31.1	徳島	674	42.1	大阪	457	16.9	香川	432	18.6
2位	大阪	225	13.7	兵庫	148	9.3	香川	442	16.3	岡山	331	14.3
3位	東京	94	5.7	大阪	120	7.5	岡山	296	10.9	大阪	292	12.6
4位	京都	94	5.7	京都	112	7.0	兵庫	221	8.2	兵庫	247	10.6
5位	岡山	93	5.7	高知	67	4.2	京都	211	7.8	京都	246	10.6
6位	兵庫	93	5.7	東京	64	4.0	東京	193	7.1	東京	175	7.5
7位	広島	76	4.6	岡山	64	4.0	愛媛	160	5.9	広島	100	4.3
8位	愛媛	68	4.1	香川	64	4.0	広島	143	5.3	徳島	97	4.2
9位	高知	60	3.6	愛媛	40	2.5	徳島	75	2.8	愛媛	80	3.4
10位	香川	55	3.3	広島	37	2.3	高知	73	2.7	神奈川	47	2.0
11位	山口	27	1.6	神奈川	21	1.3	福岡	57	2.1	山口	31	1.3
12位	神奈川	27	1.6	福岡	17	1.1	滋賀	51	1.9	福岡	30	1.3
13位	滋賀	27	1.6	静岡	17	1.1	愛知	45	1.7	高知	27	1.2

	愛 媛				高 知							
	男子		女子		男子		女子					
	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)				
1位	愛媛	956	29.7	愛媛	1,156	40.1	高知	310	20.1	高知	438	31.0
2位	広島	338	10.5	大阪	200	6.9	大阪	206	13.4	大阪	142	10.0
3位	大阪	337	10.5	広島	194	6.7	東京	139	9.0	兵庫	122	8.6
4位	東京	224	7.0	東京	180	6.2	愛媛	113	7.3	東京	115	8.1
5位	岡山	149	4.6	兵庫	174	6.0	兵庫	105	6.8	京都	112	7.9
6位	京都	142	4.4	岡山	165	5.7	岡山	103	6.7	岡山	97	6.9
7位	兵庫	136	4.2	京都	150	5.2	京都	95	6.2	徳島	60	4.2
8位	福岡	125	3.9	徳島	85	2.9	広島	63	4.1	愛媛	59	4.2
9位	高知	90	2.8	高知	71	2.5	香川	56	3.6	香川	51	3.6
10位	徳島	74	2.3	福岡	66	2.3	徳島	48	3.1	神奈川	34	2.4
11位	愛知	72	2.2	神奈川	57	2.0	神奈川	44	2.9	広島	28	2.0
12位	神奈川	68	2.1	山口	55	1.9	愛知	36	2.3	福岡	18	1.3
13位	香川	60	1.9	香川	38	1.3	福岡	33	2.1	愛知	18	1.3

表 12 進学先の上位 13 県 (福岡～宮崎)

	福 岡						佐 賀					
	男子			女子			男子			女子		
	n=		(%)	n=		(%)	n=		(%)	n=		(%)
1位	福 岡	7,745	63.5	福 岡	7,283	67.0	福 岡	713	38.1	福 岡	649	41.1
2位	東 京	756	6.2	東 京	678	6.2	佐 賀	252	13.5	佐 賀	279	17.7
3位	佐 賀	412	3.4	佐 賀	325	3.0	東 京	180	9.6	東 京	141	8.9
4位	熊 本	322	2.6	熊 本	315	2.9	熊 本	118	6.3	長 崎	88	5.6
5位	山 口	318	2.6	山 口	306	2.8	長 崎	108	5.8	熊 本	65	4.1
6位	京 都	308	2.5	京 都	274	2.5	大 阪	48	2.6	京 都	44	2.8
7位	大 阪	303	2.5	大 阪	232	2.1	神 奈 川	48	2.6	山 口	42	2.7
8位	長 崎	267	2.2	長 崎	179	1.6	京 都	41	2.2	大 阪	31	2.0
9位	神 奈 川	227	1.9	神 奈 川	178	1.6	山 口	34	1.8	神 奈 川	25	1.6
10位	大 分	173	1.4	兵 庫	171	1.6	大 分	33	1.8	広 島	25	1.6
11位	兵 庫	170	1.4	大 分	129	1.2	広 島	32	1.7	大 分	23	1.5
12位	広 島	164	1.3	広 島	110	1.0	鹿 児 島	31	1.7	兵 庫	19	1.2
13位	鹿 児 島	127	1.0	鹿 児 島	86	0.8	兵 庫	29	1.6	鹿 児 島	18	1.1

	長 崎						熊 本					
	男子			女子			男子			女子		
	n=		(%)	n=		(%)	n=		(%)	n=		(%)
1位	長 崎	875	31.4	長 崎	1,078	44.5	熊 本	1,575	41.9	熊 本	1,701	49.9
2位	福 岡	641	23.0	福 岡	426	17.6	福 岡	679	18.1	福 岡	569	16.7
3位	東 京	194	7.0	東 京	153	6.3	東 京	289	7.7	東 京	254	7.5
4位	熊 本	135	4.8	熊 本	93	3.8	鹿 児 島	140	3.7	京 都	100	2.9
5位	大 分	84	3.0	佐 賀	88	3.6	神 奈 川	123	3.3	鹿 児 島	93	2.7
6位	大 阪	74	2.7	大 阪	61	2.5	大 阪	104	2.8	大 阪	89	2.6
7位	山 口	72	2.6	広 島	55	2.3	長 崎	96	2.6	長 崎	67	2.0
8位	神 奈 川	70	2.5	山 口	49	2.0	大 分	83	2.2	神 奈 川	57	1.7
9位	佐 賀	68	2.4	京 都	47	1.9	京 都	79	2.1	大 分	49	1.4
10位	広 島	64	2.3	神 奈 川	42	1.7	宮 崎	67	1.8	兵 庫	46	1.3
11位	京 都	56	2.0	大 分	42	1.7	広 島	63	1.7	宮 崎	45	1.3
12位	兵 庫	48	1.7	鹿 児 島	39	1.6	兵 庫	54	1.4	広 島	43	1.3
13位	鹿 児 島	44	1.6	岡 山	32	1.3	千 葉	46	1.2	佐 賀	42	1.2

	大 分						宮 崎					
	男子			女子			男子			女子		
	n=		(%)	n=		(%)	n=		(%)	n=		(%)
1位	大 分	637	27.7	大 分	506	27.8	宮 崎	488	22.0	宮 崎	570	30.9
2位	福 岡	577	25.1	福 岡	422	23.2	福 岡	463	20.8	福 岡	322	17.5
3位	東 京	141	6.1	東 京	134	7.4	東 京	186	8.4	東 京	159	8.6
4位	熊 本	115	5.0	熊 本	109	6.0	熊 本	160	7.2	熊 本	136	7.4
5位	山 口	81	3.5	山 口	80	4.4	大 分	135	6.1	大 分	77	4.2
6位	長 崎	74	3.2	京 都	61	3.4	鹿 児 島	126	5.7	鹿 児 島	77	4.2
7位	大 阪	72	3.1	長 崎	57	3.1	大 阪	91	4.1	大 阪	53	2.9
8位	京 都	72	3.1	広 島	53	2.9	神 奈 川	63	2.8	長 崎	52	2.8
9位	広 島	70	3.0	宮 崎	49	2.7	長 崎	55	2.5	山 口	42	2.3
10位	宮 崎	56	2.4	大 阪	46	2.5	山 口	52	2.3	京 都	40	2.2
11位	鹿 児 島	46	2.0	神 奈 川	40	2.2	京 都	38	1.7	神 奈 川	39	2.1
12位	神 奈 川	42	1.8	岡 山	32	1.8	広 島	37	1.7	広 島	37	2.0
13位	愛 知	37	1.6	兵 庫	30	1.6	兵 庫	35	1.6	兵 庫	35	1.9

表 13 進学先の上位 13 県（鹿児島～沖縄）

	鹿児島				沖縄							
	男子		女子		男子		女子					
	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)	n=	(%)				
1位	鹿児島	1,191	33.3	鹿児島	987	35.3	沖縄	1,739	38.9	沖縄	1,699	40.7
2位	福岡	623	17.4	福岡	381	13.6	東京	688	15.4	東京	665	15.9
3位	東京	346	9.7	東京	307	11.0	福岡	298	6.7	福岡	220	5.3
4位	熊本	206	5.8	熊本	161	5.8	大阪	246	5.5	神奈川	199	4.8
5位	大阪	119	3.3	大阪	104	3.7	神奈川	205	4.6	大阪	176	4.2
6位	宮崎	106	3.0	京都	86	3.1	京都	139	3.1	京都	145	3.5
7位	神奈川	101	2.8	宮崎	80	2.9	埼玉	126	2.8	千葉	119	2.9
8位	京都	85	2.4	長崎	74	2.6	千葉	124	2.8	兵庫	112	2.7
9位	長崎	81	2.3	神奈川	67	2.4	愛知	111	2.5	愛知	105	2.5
10位	広島	80	2.2	兵庫	61	2.2	兵庫	99	2.2	埼玉	86	2.1
11位	愛知	64	1.8	愛知	59	2.1	北海道	60	1.3	広島	52	1.2
12位	埼玉	64	1.8	広島	57	2.0	長崎	58	1.3	徳島	51	1.2
13位	千葉	59	1.7	埼玉	55	2.0	熊本	47	1.1	長崎	50	1.2

6 地元と認識されている他県

上記までには、どの県の学生が、どこまで地元と認識しているかについて示してきた。これは学生からの視点であった。本節では、県からの視点に置き換えて再度まとめることにする。すなわち、その県はどの他県の学生から地元と認識されているのかについて示す（表 14）。

宮城が東北エリア内すべての他県の学生から、

京都と大阪が関西エリア内すべての他県の学生から、広島が中国エリア内すべての他県の学生から、福岡が九州エリア内すべての他県の学生から地元と認識されていた。北海道、福島、甲信越の 3 県（新潟、山梨、長野）、奈良、和歌山、山口、高知、大分、沖縄は、どの他県の学生からも地元とは認識されていなかった。

表 14 地元と認識されている他県

エリア	都道府県	地元と認識されている他県						
北海道	北海道							
東北	青森	岩手						
	岩手	青森	秋田					
	宮城	青森	岩手	秋田	山形	福島		
	秋田	山形						
	山形	福島						
	福島							
関東	茨城	栃木						
	栃木	群馬						
	群馬	栃木						
	埼玉	群馬	東京					
	千葉	茨城	東京					
	東京	埼玉	千葉	神奈川				
	神奈川	東京						
甲信越	新潟							
	山梨							
	長野							
東海	岐阜	愛知						
	静岡	愛知						
	愛知	岐阜	三重					
	三重	岐阜	愛知					
北陸	富山	石川						
	石川	富山						
	福井	石川						
関西	滋賀	京都						
	京都	滋賀	大阪	兵庫	奈良	和歌山		
	大阪	滋賀	京都	兵庫	奈良	和歌山		
	兵庫	京都	大阪	奈良	和歌山			
	奈良	和歌山						
中国	鳥取	島根						
	島根	鳥取						
	岡山	鳥取	広島	香川				
	広島	鳥取	島根	岡山	山口			
	山口							
四国	徳島	香川	愛媛					
	香川	徳島	愛媛					
	愛媛	徳島	香川					
	高知							
九州	福岡	山口	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島
	佐賀	長崎						
	長崎	佐賀						
	熊本	大分	鹿児島					
	大分							
	宮崎	鹿児島						
	鹿児島	宮崎						
沖縄	沖縄							

7 近隣と遠方を分けた県内学生数の内訳

上記までに示してきたように、県内学生数の内訳は、自県進学者、他県の高校を卒業して自県の大学に進学する者（他県からの進学者）、留学生等を含む「その他」としてカウントされる者に分類できる。本節では、他県からの進学者について近隣の者と遠方の者を分けて捉えることにする。すなわち、表14の地元と認識されている他県からの進学者を「他県からの進学者（近隣）」として、それ以外の他県からの進学者を「他県からの進学者（遠方）」とする。

(1) 都道府県ごとの結果

近隣と遠方を分けた県内学生数の内訳を男女別に示す（表15）。表1と同様に、各指標について、上位であるほど赤色、下位であるほど青色、中間は白色になるカラースケールを施した。また、上位12県および下位12県について太字を施した。赤色の太字を「高い（または、多い）」と、青色の太字を「低い（または、少ない）」とみなし、それ以外を「中程度」とみなすことにする。

男子の自県進学者と女子の自県進学者との間には強い正の相関（ $r=.93$ ）がみられた。両者の分布はほぼ一致していることが分かる。最も自県進学者が多いのは男女ともに沖縄であった（男子：

76.4%、女子：81.4%）。

男子の自県進学者と他県からの進学者（近隣）との間にはほとんど相関はみられなかった（男子： $r=.01$ 、女子： $r=-.04$ ）が、他県からの進学者（遠方）との間に強い負の相関がみられた（男子： $r=-.76$ 、女子： $r=-.78$ ）。概して、自県進学者が多い県は他県からの進学者（遠方）が少ないという関係がみられたが、両者の分布が全体の傾向と一致しない県もあった。たとえば、男子の場合、東京の自県進学者は中程度（33.1%）で、他県からの進学者（遠方）は少なかった（28.0%）。京都の自県進学者は少なく（23.1%）、他県からの進学者（遠方）は少なかった（32.9%）。女子の場合、東京の自県進学者は少なく（36.1%）、他県からの進学者（遠方）は中程度であった（25.6%）。京都の自県進学者は少なく（25.7%）、他県からの進学者（遠方）が中程度であった（29.5%）。

他県からの進学者（近隣）で最も多いのは京都であった（男子：40.9%、女子：41.6%）。次いで東京（男子：35.6%、女子：35.5%）、宮城（男子：29.9%、女子：34.4%）であった。

なお、留学生等を含む「その他」としてカウントされる者は、大分が最も多かった（男子：9.4%、女子：11.0%）。2位は男子が山梨（7.1%）、女子が京都（3.2%）であった。

表 15 県内学生数の内訳 (単位：%)

	男子				女子			
	自県 進学者	他県 からの 進学者 (近隣)	他県 からの 進学者 (遠方)	その他	自県 進学者	他県 からの 進学者 (近隣)	他県 からの 進学者 (遠方)	その他
沖 縄	76.4	0.0	22.4	1.1	81.4	0.0	18.5	0.0
北海道	70.1	0.0	28.6	1.3	79.6	0.0	19.5	0.8
愛 知	62.3	17.5	18.6	1.6	68.5	16.2	14.3	0.9
鹿児島	55.2	5.8	34.4	4.5	66.4	5.2	26.8	1.7
静 岡	55.1	9.4	33.6	1.9	67.6	6.7	24.2	1.5
福 岡	54.2	29.7	14.3	1.8	61.9	27.1	9.7	1.4
広 島	53.9	15.5	29.7	1.0	64.8	13.8	20.5	0.9
新 潟	53.5	0.0	45.4	1.1	58.5	0.0	41.1	0.4
熊 本	53.4	10.9	34.3	1.4	61.8	9.8	27.7	0.7
青 森	53.0	7.2	37.9	1.9	63.0	6.8	28.9	1.3
三 重	51.0	22.6	25.1	1.3	62.2	21.5	15.4	0.9
福 井	48.4	5.8	43.8	1.9	67.5	6.1	25.5	0.9
大 阪	48.2	29.5	20.0	2.3	50.9	27.9	18.9	2.3
兵 庫	47.6	21.9	26.1	4.5	49.6	25.9	21.5	3.0
愛 媛	46.5	11.1	42.1	0.2	61.1	6.3	32.1	0.4
宮 城	45.5	29.9	23.9	0.7	51.2	34.4	13.8	0.5
栃 木	45.2	17.9	34.2	2.6	50.1	15.3	32.8	1.7
長 崎	45.2	5.6	46.7	2.5	58.0	4.7	35.6	1.7
岩 手	44.3	14.9	40.1	0.8	56.5	15.9	27.1	0.5
宮 崎	44.2	9.6	44.5	1.7	55.9	7.8	35.6	0.7
岐 阜	41.6	28.4	28.9	1.1	50.0	25.8	23.5	0.7
岡 山	41.4	17.6	38.3	2.6	47.7	18.9	31.3	2.0
福 島	41.2	0.0	57.6	1.2	54.7	0.0	43.7	1.7
香 川	41.2	10.7	47.3	0.8	44.7	10.5	44.8	0.0
茨 城	39.7	10.0	49.1	1.2	55.0	5.6	38.7	0.7
群 馬	38.9	16.0	40.2	4.9	50.4	15.9	32.0	1.7
徳 島	38.5	11.2	49.4	1.0	50.5	13.6	35.2	0.7
神奈川	37.6	20.0	39.0	3.4	38.1	23.9	35.3	2.6
秋 田	37.3	3.4	56.8	2.5	43.5	3.2	51.4	1.9
千 葉	37.0	16.7	43.6	2.7	41.7	16.5	39.4	2.4
埼 玉	36.7	17.8	42.3	3.2	36.6	21.1	39.7	2.6
石 川	35.2	13.8	50.4	0.6	50.3	13.3	35.9	0.4
長 野	35.2	0.0	63.5	1.3	53.4	0.0	45.8	0.8
大 分	34.7	0.0	55.9	9.4	36.2	0.0	52.8	11.0
東 京	33.1	35.6	28.0	3.3	36.1	35.5	25.6	2.9
和歌山	32.3	0.0	66.6	1.2	48.6	0.0	50.7	0.7
富 山	29.3	12.1	57.4	1.2	44.6	12.3	42.3	0.8
山 梨	28.1	0.0	64.8	7.1	29.2	0.0	68.5	2.2
山 形	28.0	6.6	64.2	1.3	34.0	6.8	58.0	1.1
佐 賀	27.5	7.4	64.7	0.3	31.6	10.0	57.9	0.5
鳥 根	26.8	7.7	63.9	1.6	37.6	11.8	50.1	0.6
奈 良	26.2	0.0	72.3	1.5	26.0	0.0	72.5	1.5
高 知	25.8	0.0	73.7	0.5	42.4	0.0	57.2	0.4
京 都	23.1	40.9	32.9	3.1	25.7	41.6	29.5	3.2
山 口	23.0	0.0	72.7	4.4	32.7	0.0	64.1	3.2
滋 賀	18.5	16.7	60.7	4.1	23.8	18.4	55.0	2.8
鳥 取	17.7	4.8	76.4	1.1	28.5	5.7	65.4	0.4
相関	1	.01	-.76	-.19	.93	-.04	-.78	-.21

(2) 男女差の結果

また、男女差を可視化するために、男子の結果から女子の結果を減じた値を算出した(表16)。そして、男子が女子よりも多ければプラスの値に、女子が男子よりも多ければマイナスの値となるデータバーを施した。そして、差分の絶対値が大きい3県について太字を施した。

自県進学者の差分が大きい上位3県と、他県からの進学者(遠方)の差分が大きい3県は一致した。それぞれ、福井、長野、高知であった。たとえば、福井は女子の方が19.1%も多く自県に残留

しており、男子の方が18.3%も多く遠方の他県から進学していた。

また、全体的に、自県進学者は男子よりも女子の方が多く、他県からの進学者(遠方)は女子よりも男子の方が多かった。なお、他県からの進学者(近隣)とその他については特徴的な結果はみられなかった。

これらの結果は、大学進学の際に自県に残留するのは女子が多く、一人暮らしを伴うような遠方の他県に進学するのは男子が多いことを示している。

表 16 県内学生数の内訳の差分（単位：％）

	差分（男子－女子）				
	自県 進学者	他県 からの 進学者 (近隣)	他県 からの 進学者 (遠方)	その他	
福井	-19.1	-0.3	18.3	1.1	
長野	-18.2	0.0	17.7	0.5	
高知	-16.6	0.0	16.5	0.1	
和歌山	-16.3	0.0	15.8	0.5	
富山	-15.3	-0.2	15.1	0.4	
茨城	-15.3	4.4	10.3	0.6	
石川	-15.1	0.5	14.4	0.2	
愛媛	-14.6	4.8	10.0	-0.2	
福島	-13.5	0.0	13.9	-0.5	
長崎	-12.8	0.8	11.1	0.9	
静岡	-12.5	2.7	9.4	0.3	
岩手	-12.2	-1.0	12.9	0.3	
徳島	-12.0	-2.4	14.2	0.3	
宮崎	-11.7	1.7	8.9	1.0	
群馬	-11.5	0.1	8.3	3.1	
鹿児島	-11.2	0.7	7.6	2.9	
三重	-11.1	1.0	9.7	0.4	
広島	-10.9	1.7	9.2	0.1	
島根	-10.8	-4.1	13.9	1.0	
鳥取	-10.8	-0.9	11.0	0.7	
青森	-10.0	0.5	9.0	0.6	
山口	-9.8	0.0	8.5	1.2	
北海道	-9.6	0.0	9.1	0.5	
岐阜	-8.4	2.7	5.4	0.4	
熊本	-8.4	1.1	6.6	0.8	
福岡	-7.7	2.6	4.7	0.4	
岡山	-6.3	-1.3	7.0	0.6	
愛知	-6.2	1.2	4.3	0.7	
秋田	-6.2	0.2	5.3	0.6	
山形	-6.1	-0.2	6.1	0.2	
宮城	-5.8	-4.5	10.0	0.2	
滋賀	-5.3	-1.8	5.7	1.3	
新潟	-5.1	0.0	4.3	0.7	
沖縄	-5.0	0.0	3.9	1.1	
栃木	-4.8	2.6	1.4	0.8	
千葉	-4.7	0.2	4.2	0.3	
佐賀	-4.1	-2.6	6.8	-0.1	
香川	-3.5	0.2	2.5	0.8	
東京	-3.0	0.2	2.4	0.4	
大阪	-2.7	1.6	1.1	0.1	
京都	-2.6	-0.7	3.4	-0.0	
兵庫	-2.0	-4.0	4.6	1.5	
大分	-1.5	0.0	3.1	-1.6	
山梨	-1.1	0.0	-3.7	4.9	
神奈川	-0.5	-4.0	3.7	0.8	
埼玉	0.1	-3.3	2.5	0.6	
奈良	0.2	0.0	-0.3	0.0	

(3) 地元志向の観点から

最後に、県内学生数の内訳について、地元志向の観点からまとめることにする。

上述してきたように、県内学生数の内訳は、自県進学者、他県からの進学者（近隣）、他県からの進学者（遠方）、留学生等を含む「その他」としてカウントされる者に分類できる。このうち、自県進学者は地元志向であることを示している。これはいわば狭義の地元志向である。それに対して他県からの進学者（近隣）は、その県を地元と認識している者であるため、自県進学者と他県からの進学者（近隣）をあわせると広義の地元志向といえる。そこで、自県進学者と他県からの進学者（近隣）の合計が高い順にソートして図で示すことにした。以降ではこの両者をあわせたものを「その県を地元と認識している学生」と呼ぶことにする。

男子の結果を図12に示す。その県を地元と認識している学生が最も多いのは福岡であった。自県進学者と他県からの進学者（近隣）の合計は80%以上であった。次いで、愛知、大阪、沖縄、宮城、三重、北海道であった。沖縄と北海道はどの他県の学生からも地元と認識されていなかったため、他県からの進学者（近隣）は0%であり、他県進学者はすべて遠方からの者であった。

一方、その県を地元と認識している学生が最も少ないのは鳥取であった。自県進学者が17.7%、他県からの進学者（近隣）が4.8%であり、両者の合計は22.5%であった。これは、鳥取の男子学生のうちの8割近くは鳥取を地元とは認識していないことを示している。

女子の結果を図13に示す。上述したように、全体的に男子と比べて、自県進学者が多く、他県からの進学者（遠方）が少ないことが分かる。男子と同様に、その県を地元と認識している学生が最も多いのは福岡であった。自県進学者と他県からの進学者（近隣）の合計は90%近くであった。次いで、宮城、愛知、三重、沖縄、北海道、大阪であった。

一方、その県を地元と認識している学生が最も

少ないのは奈良であった。自県進学者が26.0%であった。これは、奈良の女子学生のうちの70%以上は奈良を地元とは認識していないことを示している。

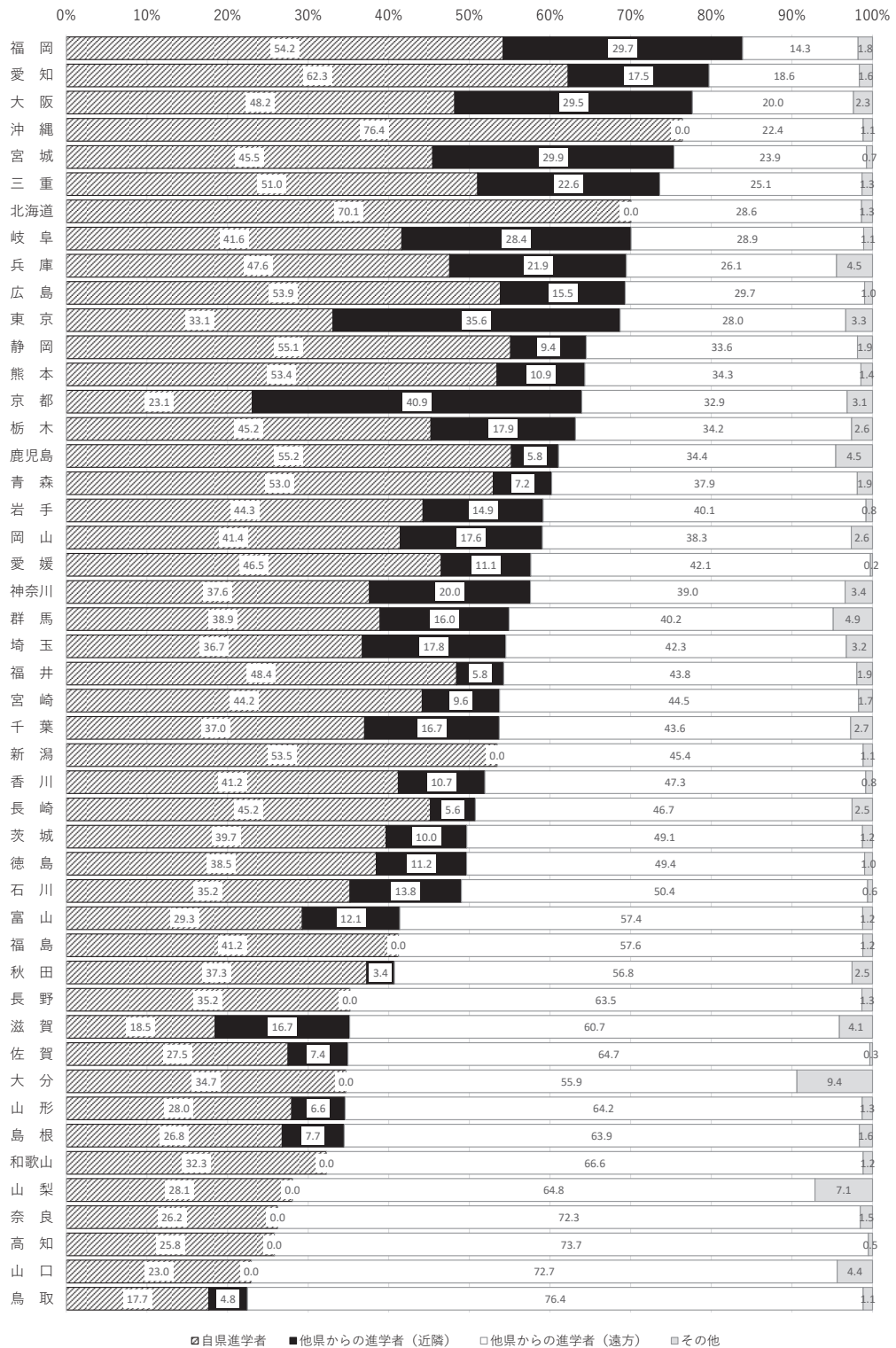


図 12 県内学生数の内訳 (男子)

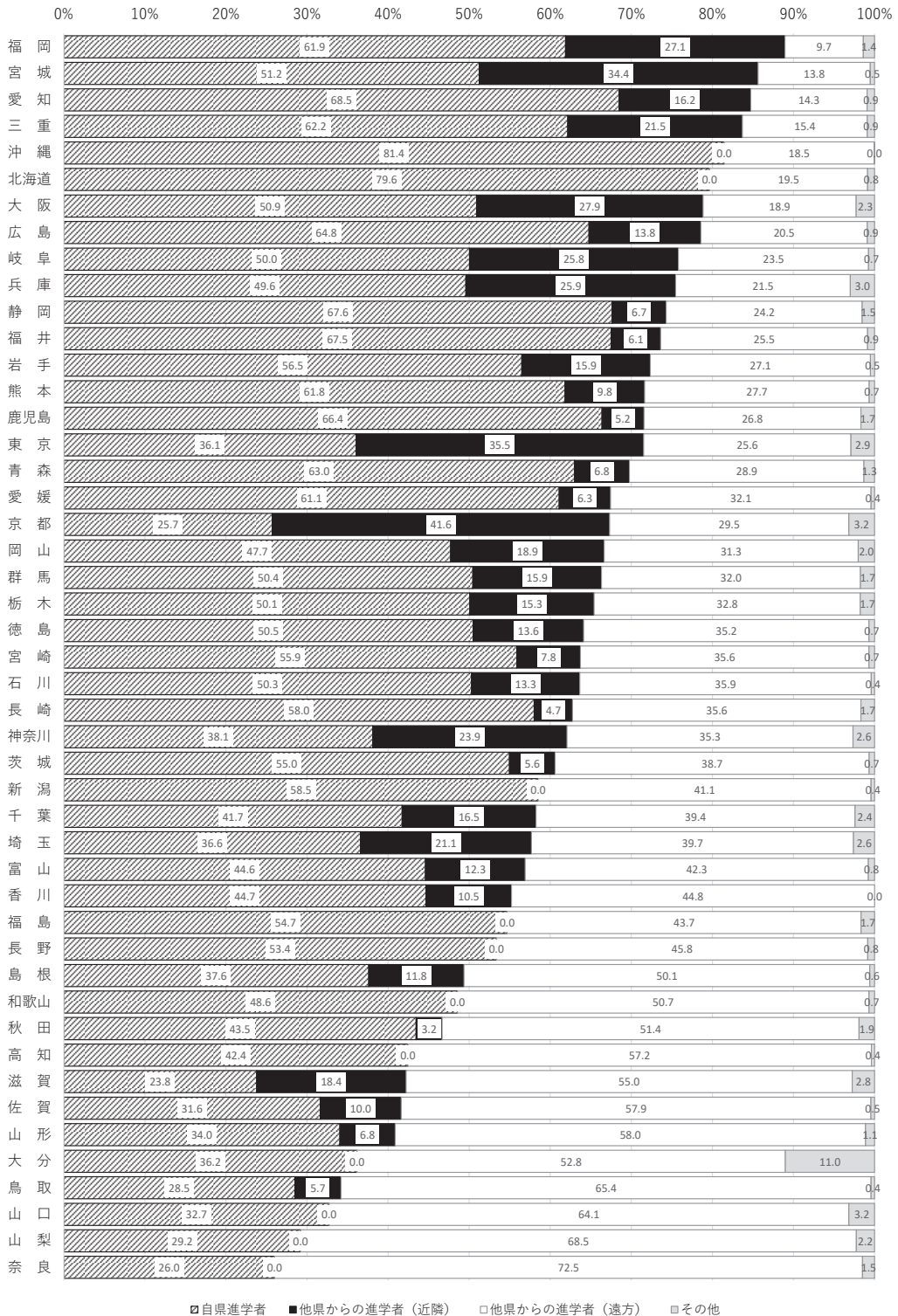


図 13 県内学生数の内訳 (女子)

8 まとめと実践への示唆

(1) まとめ

本研究では、都道府県別の自県進学率と県内学生数を可視化した。

第1節では、年齢別の都道府県間移動では18歳と22歳が多いことを示し、これが大学進学時および大学卒業の就職に関連することを指摘した。その後、若者の地元進学に対する社会的な関心の高まりの背景を述べた。

第2節では、18歳人口には大学進学者とその他の進路の者が含まれ、大学進学者には自県進学者と他県進学者が含まれることを示した。自県進学率と大学進学率には正の相関があること、概して、大学進学率は男子が女子より高く、自県進学率は女子が男子より高いことを示した。

第3節では、県内学生数に自県進学者、他県からの進学者、その他の者が含まれることを示し、他県からの進学者がどれだけ遠方から進学してくるのかを把握することの重要性を指摘した。

第4節では、他県進学者について、近隣の者と遠方の者を区別するための指標として、地元と認識する他県について説明した。

第5節では、地元と認識する他県という指標が各県の進学先の実態と関連があることを示した。すなわち、各県の学生が地元と認識する他県は進学先の上位13県に含まれていることを示した。それに対して、自エリアの他県は必ずしもそのような結果がみられなかった。

第6節では、第4節の結果を県からの視点に置き換え、地元と認識されている他県について説明した。

第7節では、第6節で作成した地元と認識されている他県の指標を用いて、他県からの進学者を近隣の者と遠方の者に分け、県内学生数の内訳を視覚化した。自県進学者と他県からの進学者（近隣）をあわせて、広義の地元志向とみなす視点を提供し、県内学生の70%以上がその県を地元と認識していない県が存在することを示した。

(2) 本研究の意義

本研究は「地元と認識する他県」と「地元と認識されている他県」という指標を提案し、これらの指標が大学進学時の都道府県間移動の実態を反映していることを確認した。

先行研究では、自県進学者のみを地元志向とみなすことが多いが、一部の例外もある。たとえば、宮町（2017）は、大学所在地のある自県のみを地元と捉えるのではなく、東北や九州といった広域圏を「地元」の範囲とすることが妥当であると主張し、村山（2007）は、高校から大学への移動は、自県や隣県、近県などの地域ブロック内の範囲に抑えられがちであることを明らかにした。これらの研究は自県のみを地元と定義することの限界を示唆し、エリアの視点を取り入れることの重要性を指摘している。

しかし、第5節で示したように、大学進学者の進学先の実態を踏まえるならば、自エリア全てを地元とすることは過剰に広く捉えすぎている可能性がある。本研究が示した「地元と認識する他県」と「地元と認識されている他県」という指標は、広義に地元志向を捉える際に従来になかった視点を提供できる可能性がある。

本研究は、自県進学者と他県からの進学者（近隣）をあわせて、広義の地元志向とみなし、都道府県別の県内学生の地元志向の特徴を明らかにした（第7節）。

(3) 実践への示唆

本研究では、県内学生の多くがその県を地元とみなしている県と、そうではない県の存在があることを示した（第7節）。たとえば、男女ともに、その県を地元と認識している学生が少ない県は、山口と奈良であった（第7節）。これらの県はどの他県の学生からも地元とは認識されていなかった（第6節）。

このことは、企業の人事担当者や自県就職を促す立場にある者が、一律的に地元の県の学生に対して地元の就職情報を伝えればよいわけではないことを示している。

たとえば、山口に所在する企業の人事担当者は、山口の学生だけでなく、他県への進学者が多かった福岡や広島の子生にも積極的にアプローチをすることが有効になりうる（第5節）。奈良に所在する企業の人事担当者は、奈良の学生だけでなく、大阪や京都の学生にもアプローチをすることが、有効になりうる（第5節）。これらは、広義に地元志向を捉え、高校、大学が地元である者に対して地元就職を促すアプローチや、地元と認識する他県に進学した者に地元へのUターン就職を促すアプローチと呼ぶことができる。

それ以外にも、第7節で示した他県からの進学者（遠方）、すなわち、その県を地元と認識していない学生にこそ、地元で働くことの魅力を伝えたいという前提が必要になるかもしれない。これは遠方の県から進学してきたから学生に対して、そのまま大学所在地の県に就職を促すアプローチと呼ぶことができる。この場合、大学進学時に転入者としてカウントされた者が、卒業後の就職時に転出者にならない可能性がある。

以上のように、本研究の結果は、地方創生の取り組みや教育政策の策定において、地元進学を促進するための有効な戦略の検討に貢献することが期待される。

引用文献

- 参議院（2018）「参議院本会議投票結果（第196回国会 2018年5月25日）」
- 総務省（2023）「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（令和5年1月1日現在）」
- 総務省（2024）「住民基本台帳人口移動報告 2023年（令和5年）結果」
- 田澤実（2018）「大学生の地元意識の広さ」『キャリアデザイン学部紀要』15, p103-117.
- 田澤実（2019）「大学生の地元志向と交通網：地元と認識する他県に注目して」『生涯学習とキャリアデザイン』16(2), p75-85.
- 田澤実（2020）「自県進学率と地元意識の広さ」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』17, p79-104.
- 内閣官房・内閣府（2020）「第2期『まち・ひと・しごと

と創生総合戦略』（2020改訂版）」

- 内閣官房・内閣府（2021）「まち・ひと・しごと創生基本方針 2021」
- マイナビ（2020）『2021年卒大学生Uターン・地元就職に関する調査』
- マイナビ（2021）『2022年卒大学生Uターン・地元就職に関する調査』
- マイナビ（2022）『2023年卒大学生Uターン・地元就職に関する調査』
- マイナビ（2023）『2024年卒大学生Uターン・地元就職に関する調査』
- 宮町良広 2017「地域政策フィールド・ノート（6）地方創生の推進と地方大学の役割」『開発こうほう』653, p10-14.
- 村山詩帆（2007）「大学教育機会の地域間格差の再検討：進学移動の構造と過程に照準して」『大学教育年報』3, p62-74.
- 文部科学省（2020）「令和2年度大学教育再生戦略推進費『大学による地方創生人材教育プログラム構築事業』の選定結果について」
- 文部科学省（2023）「学校基本調査-令和5年度結果の概要-」

Local Enrollment and Interprefectural Student Flow in Japan: A Study on Boosting Regional Employment Opportunities

TAZAWA Minoru

In Japan, various initiatives are being undertaken by prefectures and municipalities to counteract population decline and aim for population increase. Mainly, inter-prefectural mobility among the age groups of 18 and 22 is notable due to university enrollment and post-graduation employment. This study aimed to visualize the intraprefectural university enrollment rate and the Number of students within each prefecture, thereby exploring the trends in higher education and characteristics of regional mobility among the youth. Through data analysis based on the Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology's "School Basic Survey," this research proposed new indicators: "other prefectures recognized as local" and "prefectures recognized as local by others" and clarified that these indicators accurately reflect the reality of inter-prefectural movement at the time of university enrollment.

Addressing the narrow and broad definitions of local orientation, which has often been overlooked in previous studies, the analysis using these new indicators showed significant differences in the degree to which students consider their prefecture as local, depending on the prefecture. These findings are likely helpful for those aiming to promote local employment, suggesting that a specific and practical approach tailored to the target student population is needed. Additionally, visualizing which other prefecture students recognize their prefecture as local and where students from their prefecture are going for higher education provides valuable information for considering employment information provision strategies. The results of this study have the potential to contribute to examining strategies for promoting local enrollment in the context of regional revitalization and the formulation of educational policies.